

かながわの水がめ

神奈川県は、相模川水系と酒匂川水系の2つの水源により県内水需要の9割以上をまかなっています。
相模川水系には相模ダム・城山ダム・宮ヶ瀬ダム、酒匂川水系には三保ダムがあり、
4つのダムは「かながわの水がめ」として大きな役割を果たしています。

皆さんが使っている水は どこから来るのでしょうか？

集水エリア

ダム上流域や、取水施設までの
ダム下流域に集まる水のエリア
をご紹介します。

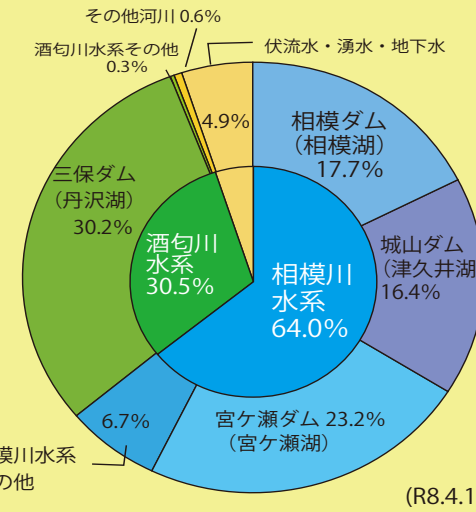
- 相模・城山・宮ヶ瀬ダム
- 寒川取水施設
- 三保ダム
- 飯泉取水施設

供給エリア

お住まいの地域にどの水系の水
が届いているかをご紹介します。

- 相模川水系
- 酒匂川水系
- 相模川+酒匂川水系
- その他
(地下水、伏流水、湧水等)

神奈川県内の上水道の水源保有構成比



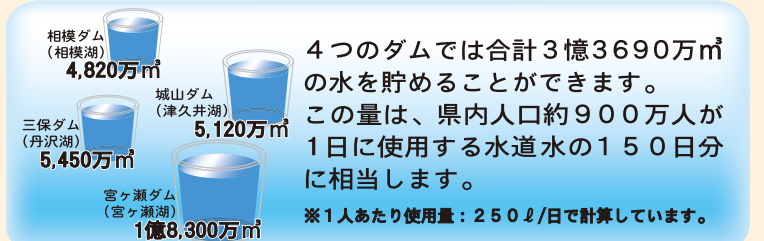
ダムの役割

水の安定供給

ダムでは、川の水量が多いときには水を貯め、反対に水量
が少なくなったときには貯めておいた水を川に流すことで、水
の安定供給を行っています。

これにより、皆さんの暮らしに不可欠な水を確保するととも
に、川の環境を保全しています。

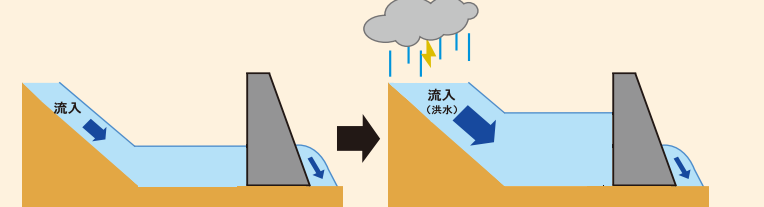
かながわの水がめで貯められる水の量



洪水被害の軽減

台風などで大雨が降ると、川の水量が急激に増え、洪水の
危険が高まります。

ダムでは、流れ込む水の一部を貯めることで洪水被害を軽減
しています。



クリーンエネルギーの供給

ダムでは、水の高低差を利用した水力発電を行い、クリーン
なエネルギーを生み出しています。

渇水に強い神奈川

総合運用

集水エリアや貯水容量の違いから、相模ダム・城山ダムは「水が貯まりやすいが、たくさん貯めることができない」、宮ヶ瀬ダムは「水が貯まりにくい、たくさん貯めることができる」という特徴があります。

そこで、2つの地下トンネル(導水路)でつなぐことで、相模ダム・城山ダムと宮ヶ瀬ダムが連携して、効率よく水をやり取りする「総合運用」を行っています。

2水系間の連携

相模川水系と酒匂川水系を地下トンネルでつなぐことで、両水系の水を相互に利用する「2水系間の連携」を可能としています。

これにより、水質事故・災害時などの際にも、相互にバックアップを図ることができます。

※宮ヶ瀬ダムは国土交通省、飯泉取水堰・相模大堰・西長沢浄水場は神奈川県内広域水道企業団が所管しています。



相模川も酒匂川も
富士山から
始まるんだね！

神奈川県 ダム・発電
キャラクター
ダムエレキくん®

